2023年度5歳児年間カリキュラム

年間目標	・友達との園生活を楽しみ、いろいろな遊びを意欲的に行なうとともに、基本的な生活習慣や態度を身につける。・人との関わりの中で社会における必要な態度を身につけ、主体的に行動し充実感を味わう。・自然や身近な事象に興味関心を持ち、豊かな心情や知的好奇心、探求心を高め、生活に取り入れる。・生活中で言葉を使って表現する意欲を持ち、伝え合う喜びを味わう。・様々な表現を楽しみ、意欲的、創造的に遊びや仕事に取組み、表現することの楽しさを味わう。・神様の存在を知り、聖書のお話に耳を傾け、最後の園生活の思い出をたくさん作る。												
子どもの姿と育てたい側面	○年長組になったことの喜びや期待が見られ、年中児クラスからのつながりのある友達といっしょに遊ぼうとする。中には緊張感や不安感を持つ子どももいるので、ひとりひとりの心に添った援助をしながら年長児としての自覚を育てていきたい。 ○戸外で活動することを好み、活動量も多くなる。進んで体を動かす心地良さを十分に味わわせ、健康な体作りにつなげていきたい。 ○友達といろいろな遊びや運動を楽しんでいる。友達とのつながりを深めていきたい。 ○身近な自然や動植物に親しみ、世話をすることの楽しさを味わわせたい。 ○年下の子どもの世話をしようとする姿を大切にして、年下の子どもへのかかわりや、自分が頼られる喜びを味わわせたい。		○指示に対する理解が早くなるとともに、自分から進んでやってみようとする意気込みが見られる。環境からの刺激を取り入れて、新しいことに挑む勇気を育てていきたい。 ○何人かがいっしょになって遊びを進めようとする気持ちが強くなるが、互いに主張がぶつかったり、考えが伝わらなかったりして、十分に楽しめない状態が見られる。互いの考えに気づき受け入れようとする態度を育てたい。 ○相手の思いや考えに気づきながらも自己主張する姿がある。その葛藤のプロセスを大事にしながら、自分をコントロールしようとする気持ちを育てたい。 ○身の回りの自然事象や事物に対して興味や関心が高まり、友達といっしょによく見たり考えたりするようすが見られる。自然体験、直接体験を豊かにし、ほかの子どもの考えにふれ、試したり工夫したりして、新しい考えを生み出す喜びや楽しさを味わい、みずから考えようとする気持ちを育てたい。		○カいっぱい体を動かすことを好み、自分なりの課題を持ってがんばろうとする気持ちが高まっている。また、みんなでひとつの目的を持って何かをやり遂げようとする姿が見られる。いろいろな運動遊びを通して、進んで物事に取り組む意欲と達成感をはぐくみたい。 ○生活経験が広がると同時に友達同士の会話が盛んになり、言葉の表現が豊かになる。自分が話すだけでなく、人の話を聞く態度を育てたい。 ○季節感を味わいながら、自然とじっくりかかわる体験を通して、感じる心を豊かにしたい。 ○地域の人々や高齢者と、日常的な生活の中でゆったりとかかわり、心を通わせる経験を大切にしたい。		○遊びの内容が豊かになり、また、友達の思いや考えを受け入れようとする姿が見られる。共通の目的を持ってグループの友達と考えたり工夫したりすることを楽しむ。みんなで取り組む喜びと、協力してやり遂げる充実感を味わわせたい。 ○知的好奇心や探究心が高まり、さまざまなことに積極的にかかわろうとする姿が多くなる。思ったこと、感じたことを表現する意欲やイメージを実現する楽しさ、自然にかかわって感動する気持ち、知識を獲得する喜びを十分に味わわせたい。 ○ひとりひとりが大切な存在であることを知り、互いに尊重し合う大切さに気づかせたい。 ○よいこと、悪いことについて、自分で考え、判断できるようにしていきたい。		○もうすぐ入学という期待を持ちながら自分たちの遊びを十分に楽しみ、年長児らしい積極的な行動が取れるようになっている。友達とのつながりや生活を共にする喜びを十分に味わわせ、自覚と自信のある行動が取れるようになってほしい。 ○生活や活動の見通しがつくようになる。また、物事に積極的に取り組み、グループ同士交流し、それぞれ友達と相談したり工夫したりして活動を発展させるようになる。この中で互いを認め、助け合いながら自分たちで自主的に生活を進めようとする態度をはぐくみたい。 ○身近な自然事象や社会事象に対する関心が強くなり、身近なこととかかわって疑問を持ったり、知りたがったりすることが多くなっている。自分たちで話し合ったり、調べたり考えたりする態度を育てていきたい。		
発達の節	**Ⅰ期**		**Ⅱ期**			**Ⅲ期**		**Ⅳ期**		**Ⅴ期**		
月	**4**	**5**	**6**	**7**	**8**	**9**	**10**	**11**	**12**	**1**	**2**	**3**
ねらい	○新しい環境、保育教諭(担任)に慣れ、友達との遊びや生活を楽しむ。 ○年長児としての意識を持ち、保育者や友だちと張り切って生活をする。 生活に必要な決まりを守る。 ○春の自然を感じ、虫、木々、草花などに触れる		○友達とのつながりを深め、互いの思いを伝えながら遊びを進める。　○自然や身近な環境とふれあい、見たり試したり考えたりして遊ぶ。　○自分の力を十分の発揮して、運動や遊びに取り組む。			○戸外で体を十分に動かし、友達といっしょに遊びや生活を進める楽しさを味わう。 ○身近な自然や事象を見たり接したりして、考えたり感動したりする。 ○感じたこと、考えたことをさまざまな方法で表現する。		○遊びや生活の中で、共通の目的を持ち、工夫しながら活動に取り組む。 ○自分たちで考えたことを遊びの中で実現したり表現したりする楽しさを味わう。		○それぞれが自分らしさを大切にしながら、協力して遊びや生活を進めていく充実感を味わう。 ○身近な事物や事象に関心を持ち、興味を持ってかかわったり、考えたりして、生活を広げていく。 ○友達といろいろな活動に楽しんで取り組みながら、自分の思いや感じたことを豊かに表現し合い、互いの成長を喜び認め合う。		
指導内容の視点 ○心と身体の健康 ●人との関わり ▼環境との関わり ◆言葉の育ち ■表現する力	○十分に体を動かして遊び、進んで食事をすることを楽しむ。 ○園生活に必要な決まりを確認したり、自分たちで生活の場を整えようとしたりする。 ○安全に気をつけて、遊具や用具を正しく使う。 ○新しい場や年長としての生活の仕方や習慣を身につける。 ●年長児としての自覚を持ち、友達と遊びを楽しむ。 ●友達と楽しく生活する中で気まりの大切さに気づく。　●生活の中で必要な事を自分で考え自分で行動しようとする。 ●年少児の世話をし、親しみの気持ちを持つ。 ●人の役にたった事を認められ、そのうれしさを味わう　▼身近な自然に接し、美しさや季節の変化に興味を持つ ▼身近な動植物に親しみ触れたり世話をしたりする。 ▼自然物を利用して遊ぶことを楽しむ。 ▼シール帳のシールを貼る場所が、日にちの掲示のみで　理解して貼れるようになる。 ◆保育教諭や友達の話を注意して聞き、内容を理解する。 ◆自分の気持ちを相手にわかるように伝えようとする ■いろいろな素材の性質を生かし、イメージして作ったり、感じたことを自由に描いたり、作ったり表現を楽しむ。 ■友達と一緒に楽しく歌ったり、楽器を弾いたり、リズムに合わせて身体表現を楽しむ。		○進んで戸外や水遊びに参加して十分に楽しみ、適切な休息の取り方に気付く ○自分から気づいて、汗の始末や衣服の調節をする。 ○自分の体に関心を持ち、健康な生活に必要な習慣や態度を身につける。 ○健康な生活のリズムを身につけ保育者や友達と楽しく食事をする。 ○いろいろな運動に興味を広げ、十分に体を動かし、ルールのある遊びにも進んで参加する。 ○自分なりに目的を持ち、挑戦していこうとする。 ●災害時の危険を知り、合図や指示に従って行動する。 ●遊びの中での意見や感情の行き違いの中で、相手の気持ちや考えをわかろうとする。 ●夏ならではのいろいろな遊びを友達と楽しむ。 ●生活に必要な決まりを自分たちで考え、理解して行動する。 ▼身近に起こるいろいろな事象に関心を持ち、疑問に思ったことなどを試したり調べたりする。 ▼動植物の世話を通して、命あるものの存在に気づき大切にする。 ▼栽培物の生長に関心を持ち、収穫を楽しんだり、食する喜びを味わったりする。 ▼公共の場での行動のしかたを理解してみんなで気持ち良く生活できるようにする。 ▼友達の用具の使い方に慣れ、安全に使う。 ◆自分の言いたいことをわかるように話すとともに、友達の話すことにも関心を持ち、よく聞く。 ■見たこと、考えたことを、いろいろな材料を使って、工夫して表現する。 ■歌詞やその世界を思い浮かべたりして、歌うことを楽しむ。 ■友達といっしょに、曲に合わせてリズミカルな動きや合奏を楽しむ。スキップ等ピアノに合わせて体を動かすことができるようになる ■絵本や物語などに親しみ、興味を持って聞き、想像する楽しさを味わう。		○いろいろな運動に興味を持ち、進んで行なう。 ○自分の力を出し、競い合ったり応援したりして、全身を動かして遊ぶ満足感を味わう ●友達といっしょに遊びや生活を進める楽しさを知る。 ●グループの友達と役割を分担したり、力を合わせたりして、遊びや生活を進める。 ●友達と積極的に体を動かす活動に取り組み、いっしょに遊ぶ充実感を味わう。 ●友達と十分にかかわり、自分たちで遊びを進めていく。 ●高齢者や身近な人々とのふれあいを楽しむ。 ●友達とのかかわりの中で、相手の気持ちに気づき受け入れる。 ▼園生活の流れがわかり、おおまかな見通しを持って行動する。 ▼遊具や用具を理解し、安全に使う。 ▼身近な動植物に触れ、遊んだり観察したりして興味を持って親しむ。 ▼日常生活の中で数量・図形・位置・時間に関心を持ち、生活の中で使って遊ぶ。 ◆体験したり、感じたりしたことを言葉で表現することを楽しむ　■遊びに必要なものを、適切な材料を考えて使い、工夫して作ったり飾ったりすることを楽しむ。 ■友達といろいろな歌をうたったり楽器を使ったりして、曲の感じやリズムの変化を楽しむ。 ■災害時の身の守り方がわかり、保育者や友達といっしょに機敏に避難する。		○戸外遊びに意欲的に取り組み、友達といっしょに遊びを発展させる。 ○健康な体作りに関心を持ち、好き嫌いを減らすなど健康な生活の習慣を身につける。 ○遊びの進め方を友達と話し合い、協力したり決まりを守ったりして遊びに取り組む。 ○身近な自然の美しさや季節の移り変わりに親しむ。 ○自然物を使ってさまざまな遊びを楽しみ、素材の感触や物の質などに気づいたり調べたりする。 ○自分の生活にかかわりの深い情報や、地域の人々に関心を持ってかかわり、親しみを持つ。 ○身近な機器や用具の適切な使い方を知り、遊びに生かす。 ○生活の中の言葉や文字・記号に関心を持って使う。自分たちの表現したいことを伝える手段として、取り入れて遊ぶ。 ◆友達とやりとりを十分にし、思いを伝え合う。 ◆身近な生活の中から想像を巡らし、話したり絵に描いたり遊びに取り入れたりする。 ■さまざまな素材や用具を利用してイメージを実現しようとする。 ■リズミカルに表現したり、表現を工夫して動いたりすることを楽しむ。 ■自分たちで遊びの場を整え、身近に使う物を大切にしていねいに扱う。 ■いろいろな美しい音、曲に耳を傾け、想像を豊か		○園生活の中で、場面に応じた行動ができる。やっていいこと、悪いことを自分で考えて行動する。 ○寒さに負けず、十分に体を動かし、いろいろな運動遊びに取り組む。 ●自分たちでルールを決めたり、遊び方を考えたりしてみんなで楽しむ。 ●クラスやグループの中で役割を受け持ち、目的を持って遊びや生活を進める。 ▼園生活の中で生活に見通しを持ち、時間を意識して行動する。 ▼入学への喜びや期待を膨らませ、意欲的に生活する。 ▼冬の身近な事象に関心を持ち、それを取り入れて遊んだり、動植物のようすから春の訪れに気づいたりする。 ▼自分たちの生活の場をみんなで協力して作り出し、使いやすく整えたり飾ったりする。 ◆さまざまな出来事の中で、イメージを膨らませ、感動したことを伝え合う。 ◆考えたことや感じたことを相手にわかるように話す。また、相手の話の内容を理解し、注意して聞く。 ◆生活の中でリズミカルな言葉を使ったり、言葉の楽しさや美しさに気づいたりする。 ◆簡単標識や文字などに関心を持ち、日常生活に取り入れて使う。 ■材料や用具を目的に合わせて選び、のびのびと表現し、作品を大切に扱うとともに友達の表現にも関心を持つ。 ■音楽に親しみ、感じたこと、考えたことなどを、音や動きで表現する。 ■友達との対話を楽しみ、気持ちの伝わっていく心地良さを味わう。 ■生活を共にしてきた友達や年下の子どもや身近な人々と心を通わせ、大きくなった喜びを味わい、感謝の気持ちを持つ。		
環境構成の要点	○子どもたちと共に生活の場を作っていくことを大切にし、その過程を通して年長組になった実感が持てるようにしていく。 ○のびのびと安定した気持ちで生活ができるように活動の流れに沿って時間や場を構成し、ゆとりが持てるようにする。 ○園全体の保育者が気持ちを合わせて見守りながら、年少・年中児や年長児との気持ちの良い関係が持てるような雰囲気を大切にしていく。 ○預かり・延長保育では、ひとりひとりがゆっくりと過ごせるようにひとりひとりで楽しめる玩具を用意したりして、家庭的なくつろげる空間になるよう配慮する。		○気候や気温の状態に応じて、子どもの健康に配慮した遊びを行なえるような環境を構成していくようにする。 ○友達といっしょに活動を楽しめるよう、物的・空間的な環境の構成と時間の配慮をする。 ○身近な自然物とふれあう中で、自分たちの興味や疑問を追究したり、継続して成長を見守ったりすることができる環境を工夫し、生命の大切さに気づくことにつながるさまざまな体験ができるようにする。 ○幼稚園の夏期保育(預かり保育も含む)では、夏ならではの遊びの環境を工夫し、午睡や休息に配慮した空間になるよう配慮する。			○興味や活動意欲の高まりを受け止めて、十分に力を発揮できるように、園の内外の場や地域の施設などの活用を考える。 ○移動遊具や固定遊具などについては、保育者が安全点検し、扱い方を正しく指導して、安全に配慮する。 ○カいっぱい運動に取り組み、おいしく食事をとれるようにする。 ○運動会に向けての活動量を考慮し、延長・預かり保育ではそれまでの心身に負担感のない遊びができる環境や、休息を取れる場を作る。		○ひとりひとりの活動への多様な取り組み方を受け止め、知的好奇心や探究心が満足できるように、豊かな環境を用意する。 ○体全体で自然にふれ、自然の中での遊びが満喫できるような場や機会をつくる。また、身近な動物とのふれあいなどから、生命の大切さに気づくさまざまな体験を大事にしていく 。○自分たちで遊びに必要な場作りをし、目的に向かって考えたり工夫したりしながら充実感が持てるようにする。 ○地域の資源を活用していろいろな活動を楽しみ、子どもの心を豊かにする。 ○就学時健診や小学生との交流を通して小学校生活を身近に感じ、期待を持てるようにする。		○友達やクラス全体で、創作や表現を楽しめるような活動を取り上げ、協同する楽しさや充実感を味わえるような機会を設けたりする。 ○自然とふれあうチャンスを大切にし、試したり発見したり考えたりする楽しさを十分に味わいながら、科学性の芽生えを培う環境を工夫する。 ○年長児として自分たちが誇りに思ってやってきた役割を、年中児にわかるように伝達したり頼んだりする場を計画する。		
☆保育者のかかわり・援助（養護含む）	☆年長組になった喜びと不安に揺れ動く気持ちをとらえて、ひとりひとりにていねいに応じて援助する。 ☆年長組になり張り切って何かに挑戦したいと思っている気持ちや、役にたちたい気持ちを認めて、言葉や態度、具体的な活動を通して支える。 ☆年度初めは、担任や職員の入れ替わりがあるので、職員同士、円滑なコミュニケーションを取り合い、子どもひとりひとりの特徴や性格、背景などをしっかり把握して、安心して園生活が送れるようにする。 ☆年長組になり、張り切って生活している姿を見守りながらも、長時間保育の中で、甘えを受け止め、安心してくつろげる環境をつくり、落ち着いて生活できるようにしていく。 ☆安心、安全、安定に支えられた園生活を基盤に、ひとりひとりの子どもの心のケアをしていくとともに、年長児として自分で考え、判断して行動できるよう、ひとりひとりとていねいにかかわっていく。		☆友達関係を深めるために仲間になったりアイディアを提供したり、相手の気持ちを感じ取ることができるように配慮したりして、状況に応じた援助をする。 ☆子ども同士の気持ちの行き違い、葛藤に十分につき合い、子どもが自分で気持ちの切り替えをできるように援助する。 ☆いろいろな遊びの中で、基本的な動きや技能を十分に経験できるように配慮し、ひとりひとりの発達や生活を見通して援助する。 ☆自分の健康や体について関心を持ち、食べ物、運動、生活リズムの大切さなどに子ども自身が気づいて理解するよう援助する。 ☆気温や湿度が高いので、室温や通風に配慮し、水分の補給に十分に心がける。 ☆水遊びでは、水に十分に親しませるとともに、水の危険性についても伝えていく。 ☆夏の疲れを感じるときなので、ひとりひとりの休息の取り方に柔軟に対応し、夏を健康に過ごせるようにする。子どもたちの体調については、家庭と連絡を密に取り合う。 ☆夏季期間中は、職員の入れ替えがあるので、日々の子どもたちのようすやアレルギーなどの配慮事項をていねいに伝え合い、安心して過ごせるようにしていく。		☆活動意欲の高まりとともに出る競争心、達成感を認め、自信が持てるようにする。 ☆日々のさまざまな出来事についてひとりひとりの気持ちに添いながら、場面や機会をとらえて内容によっては周囲の仲間に伝えたり、クラスで考えたりする。 ☆遊びの中で、体のさまざまな動きが体験できる活動が生まれるような環境の構成や援助に努める。 ☆夏の生活からリズムを立て直し、健康で安全な園生活を送れるようにする。 ☆子どもたちと相談したり、協力したりできるよう、十分な時間を確保し、自分たちで生活を組み立てられるようにする。 ☆子どもひとりひとりの成長のようすを見逃さず、背景にあるものを踏まえながら安定して心地良く過ごせるようにしていく。		☆クラスの中でひとりひとりのよさを認め合い、子ども同士のつながりがさらに深まるような援助をする。 ☆ひとりひとりから出てきたイメージや膨らんだイメージをまとめて実現できるように援助して、自分たちで取り組んだという充実感が味わえるようにする。 ☆地域に出かけていくときは、人数の確認、行き先との連絡、調整に配慮する。 ☆1日の生活の流れに見通しが持てるようになった子どもたちが、自分たちで考えて進めていく活動を支え、実現できるように援助し、自信を持てるようにしていく。 ☆感染症予防・手洗い・うがいの大切さなどを伝え、健康に過ごせるようにしていく。		☆卒園までの時間を大切にし、園生活を振り返り、気の合った仲間といる楽しさやクラス全体がつながっている心地良さを子どもたちと共に味わう。 ☆クラスのひとりひとりが大切な仲間であり、かけがえのない存在であることを感じ取らせる。 ☆生活習慣が身についているか、自分たちでできるようになっているかを見直していく。 ☆園生活を通じて培われた力や、ひとりひとりが自信と誇りを持って就学を迎えられるようにする。 ☆就学に向けて安心して小学校生活に移行できるよう、ひとりひとりの子どもの実態に即して、早寝・早起きの習慣や午睡などに配慮し、1日の園生活のリズムを整えていくようにする。		
家庭や地域との連携 保育園・幼稚園・小学校 との連携も含む	○近隣の小学校の施設を利用したりして、小学生と交流を持つきっかけをつくる。 ○年長児クラスで張り切って生活する姿を知らせ、親子で期待を膨らませていけるようにする。 ○災害・緊急時の連絡方法や避難場所を確認する。 ○家庭のようすを聞いたり、園での姿を伝えたりしながら、保護者のひとりひとりとの信頼関係を築いて、保護者同士のつながりをはぐくんでいく。 ○保護者に、子どもが自分でやろうとしている気持ちを支えて、成長の節となるように、認めることの大切さを提案していく。		○園便りや写真などでタイムリーに子どもの楽しいようすを伝え、成長を保護者がうれしく感じられるようにする。 ○夏休みには子どもなりに仕事を分担できることを知らせるとともに、家事を手伝う場を作るなど、家族の一員として生活していくことが大切なことを話していく。 ○子どもが試行錯誤しながら育っていくようすを伝え、温かく見守りながら励ますことの大切さを理解してもらう。 ○幼稚園では降園後の交流が深くなってくることから、友達の家でのトラブルや親同士の人間関係などで悩む保護者の気持ちを十分に受け止めていく。同時に、困ったときは園に相談できるという信頼関係を大切にしていく。		○小学校の行事に参加しながら、小学生との交流を図る。 ○運動会などの機会を通して、子どもと共に保護者も楽しみながら子どもたちがたくましく成長している姿を共に実感し、確かめ、喜び合えるようにする。 ○保護者と共に子どもの成長の変化を確認しながら連携を深める。		○園や家庭の情報を交換し、互いに子育てのネットワークを大切にし、子育てを通して保護者同士の関係を深める。 ○年末年始にいろいろな人と出会うことで、ふだん体験できないあいさつのしかたやマナーなどをはぐくんでいけるよう、保護者に伝える。		○小学校の生活や学習の滑らかな接続を意識して、小学校との連携をていねいにする。 ○小学校の体験入学等に参加して、入学への期待を膨らませる。 ○初めて入学を迎える保護者の不安が少なくなるよう、子どもの成長を伝え、また小学校と連携して具体的なようすや、どんな準備をしたらよいかを知らせる機会を保護者会などを利用して設定していく。 ○子ども自身に伝達する力がはぐくまれるように、園生活に必要な物を自分で用意し、園に持参する経験などをしながら、少しずつ生活を自分でできるように園と家庭が協力する。 ○園生活を通じて培われた人間関係は、保護者にとっても子どもにとっても大切な宝であることを確かめ、共に卒園を祝う。		
（保育者のかかわり） 環境構成の要点	・年長児になった実感が持てるような環境を子どもと共に工夫し、生活の場を作っていくことを大切にする。　・自分たちで選んで、のびのびと安定した気持ちで生活できるように時間や場にゆとりを持つようにする。　・異年齢児と気持ちの良い関係が持てるような雰囲気を大切にしていく。 ・安全に使うことができるよう遊具や用具などの点検をする。 ・進級した喜びや不安などの心の動きや気持ちをとらえて一人一人の子どもに対応していく。 ・園全体の保育教諭が気持ちを合わせて見守り、安定した生活ができるようにする。		・自ら選んで取り組める場や活動を多くするとともに、一人一人が頑張って力を試せるような場を設定する。 ・遊びがより発展するように、材料や用具の種類、提示の方法や場の構成を工夫していく。 ・気候の状態に対応して、子ども達の興味、関心に応じて室内、室外の遊びが並行して行えるような環境を整える。 ・自然物とふれあう機会を多くし、興味や疑問を追及したり継続して長い期間を予想して見守る環境を工夫し、命の大切さを感じる体験ができるようにする。　・集団行動やグループの遊びなど機会を多く持ち、その中で自分の力が十分に発揮できるよう見守る。 ・友達関係を深めるために、仲間になったりアイディアを提供したりして、状況に応じて多様な関わりを大切にする。		・自分たちで相談したり、協力したりしながら、生活や遊びが楽しめるよう場や時間の工夫をする。 ・移動遊具や固定遊具などについては、点検を行なうとともに正しい扱い方を知らせ、安全に配慮する。　・園や地域の行事などに参加したり接したりする中で、公共マナー、一般標識など周囲の環境に意識を向け気づいていく。　・活動への意欲の高まりや協力して物事をやり遂げる責任感がもてるよう見守る。　・生活や体験の中で得た感動を伝えあったり、共感しあったりする。 ・どんなときでもありがとうの気持ち、感謝の気持ちを持って過ごせるよう、聖書の話を通して子ども達と話をしたり、意見交換をしたりしながら、意識が向くようにする。		・個々の活動への多様な取り組み方を受け止め、知的好奇心や探求心が満足できるように、豊かな環境を用意する。 ・身近な事象や動植物とふれあい、直接的な体験ができる場や機会を作る。またその中で生命の大切さを感じる体験を大事にしていく。 ・生活に関係の深い情報や施設などへの興味や関心が持てる機会を作る。 ・さまざまな活動の中で個々の存在を確かめながら、子ども同士のつながりがさらに深まるように援助する。　・自然の中で試したり発見したり考えたりする楽しさを十分に味わいながら、子どもに科学性が培えるようにする。 ・自分たちで取り組んだ充実感が味わえるよう見守る。		・クラス全体やグループで意欲を持って取り組んだり、自分たちで遊びや行動を計画したり発展させたりする機会を設ける。 ・年長児として、やってきた役割を年中児にわかるように伝達したり、頼んだりする場を計画する。 ・冬の自然、春への季節の移り変わりの感じられる環境にふれられる機会をもつ。　・小学校生活へスムーズにつながるよう小学校と連携の場を持つ。 ・神様を感じ、聖書の御言葉を伝えながら心に残っていくように、絵本や紙芝居などで日々、お話をしていく。 ・終了までの時間を大切にし、友達といる楽しさや心地よさを感じ、最後の園生活が十分楽しめるように援助する。 ・子ども達の思いや考えを受け入れ、充実感が味わえるようにする。 ・自分たちで取り組んだ活動に満足できるよう援助する。		
家庭との連携	・年長組になり、周囲からの期待が強くなってくるが、自分の子どもに合わせて、負担になりすぎないように注意してもらうと共に、家庭での様子を聞きながら、園での様子も伝え、保育教諭(担任)と一緒に歩調を整えていく。 ・家庭で用意する諸用品や毎日園に持参する持ち物など、すべて保護者が用意するのではなく、子ども自身で用意しようとする気持ちを育ててもらうようにクラス便りで呼びかけたり、提案してみたりする。		・家のお手伝いをしたり、家庭の中で自分のできる役割をしたりすることで家族の一員として生活していること意識できるよう促してもらう。 ・子どもなりに試行錯誤して遊びや手伝いをしている様子を温かく見守り、自分の力で進められるよう励ましの言葉をかけてもらうよう依頼する。 ・降園後の友達との交流や保護者同士の人間関係などトラブルが起きたときは、園に相談できるという信頼関係を大切にしていく。		・園行事の意味や考え方を理解してもらうとともに、協力してもらうために、保護者や地域の方の意見も取り入れ、共に考えていくようにする。　・子どもの成長している様子やがんばってやろうとしている姿をいろいろな行事を通して実感し確認してもらい共に喜び、時には励ましてもらいながら同じ思いで進んでいけるよう子どもの状況、様子を伝えながら行う。		・生活の中でいろいろな場を利用して、身近にある道具を使う機会を持つようにしてもらう。 ・子どもを取り巻く身近な人々と出会う機会を活用し子どもなりに場に応じた行動がとれるようにする。 ・登園、降園時や家庭でも地域の自然の変化に目を向け、子どもの発見や驚きを受け止めてもらうように連絡する。		・一日の生活の仕方、遊びやお手伝いについて保護者も子どもと共に話し合い、見通しを持った行動ができるよう、園と家庭が協力して、残り少ない園生活を十分に楽しめる雰囲気を大切にしていく。 ・1年生になるからと急に高い要求をせず、学校の具体的な様子を知らせ、就学が楽しみになるようイメージ作りに努力してもらう。初めての就学の保護者に対して不安が少しでも軽減されるよう学校について具体的なわかる範囲の情報を伝えていく。 ・園外に出たとき、歩行の訓練、交通事故やそのほかの事故に遭遇しないよう、危険個所について子ども達と話し合い、伝えながら保護者にも意識してもらう。		